

第1回「リタイアメント川柳」コンテスト

入選作の発表

六〇歳
むかし定年
いま就活

大賞

(柳名) まだ20代

選評

60歳と聞いて豊かな定年を思い浮かべた時代は、もはや過去のもの。60歳を過ぎてもある程度は働かざるをえないという現実を、若い世代は「就活」という言葉で今風に表現しています。年金の支給開始年齢がどんどん遠く今の時代を象徴する句といえるでしょう。

舩添氏コメント

作者はまだ20代ということですが、フランスやイタリアのように早くリタイアするのが理想なのか、それとも少しでも長く働いたほうがいいのか。就活というと大変なイメージがありますが、半分は仕事、半分は趣味に生きる老後も悪くはないと、私は思います。

今年6月、NPO法人確定拠出年金教育協会が「リタイアメントを考える日」キャンペーンの一環として「リタイアメント川柳」を公募したところ、初回にもかかわらず全国のさまざまな年代の方々から2250通ものご応募いただきました。



スピーチする舩添氏（左）と、受賞者

いずれも力作ぞろいでしたが、別掲の句が「大賞」および「優秀賞」に選ばれ、去る9月21日に開催された「NISAとリタイアメントカンファレンス2013」において、元厚生労働大臣の舩添要一氏によって表彰されました。



優秀賞

(柳名) Y・H

選評

肩叩きという言葉にドキリとしますが、おじいさんの肩の凝りを癒す肩叩きとわかってホッとします。肩叩きから連想するイメージが孫の登場でガラリと変わってしまう意外性が、この句をほのぼのと面白い作品に仕上げています。

舩添氏コメント

肩叩きと言われると窓際族にされたような気分ですが、今年から約3年間、祖父母から教育資金を一括贈与された場合の贈与税が、1500万円までは非課税になります。この機会にぜひとも、お孫さんとの良好なコミュニケーションを築かれんことを。

肩叩き
孫からならば
ありがたい

佳作60句オンパレード(順不同)

ありがとう 君の協力 あればこそ
無事定年 愛妻弁当 お世話様
母業は 終わり無くとも 日々のし
一年後の 夢の暮らしに 支えられ
定年が 延びて「いいね!」と 妻安堵
リタイアの すぐその後に リスタート
リタイアは 次なる山の 登山口
定年の 日から始まる 趣味研修
予定表 ぎっしり詰めて 今が旬
肩書きは 捨てて仲間と ボランティア
被災地に リタイアは無い 靴を買う
リタイアし フルマラソンを 完走し
お父さん もうがんばったよと 妻の声
インフレで タンス預金を 再投資
リタイアし 背中に翼 はえてきた
定年の 次の楽しみ 再雇用
あれもやる これもやりたい 定年後
リタイアで あの日の夢に エントリー
人生は リタイアしてからが おもしろい
早く来い 定年を待つ 30代
定年は ゴールじゃなくて 給水所
汗をかき 働いた日々に 奨励賞
飛ぶ羽根を まずは繕う リタイア日
擦り減った 靴にも感謝の 定年日
四〇で 計画すべし リタイア後
ゆとりある 老後を築く ライフプラン
共にいる 時間が増えたと 母笑う
定年で 我が才能を 取り戻す
定年後 できた友人 倍以上
技術職 学習すること 終わらなし
直木賞 本屋大賞 待っている
負けまいぞ 生きた証しの 笑い皺
まだやれる 年寄り扱い しなさんな
隠居など してられるか まだ若い
定年を 停年と書く オトシゴロ
待っている 親の介護と 孫の世話
楽隠居 スネをかじられ 当て外れ
初年金 額見えずぐわく 労働意欲
年金で 暮らし安泰 なりたいやー
定年を 一年毎に 延長し
リタイアの 夫を私が 一人占め
定年後 就いた職場は 妻の部下
エプロンを 妻から継いだ 退職日
定年後 次の職場じゃ 主夫見習い
ヒマじゃない 余裕があるから 空を見る
これから 大器晩成 最盛期
停年は 三途の川を 渡るまで
三度目の 二十歳祝いの 初登山
図書館を 別荘にする 定年後
定年後 時給いくらで 競い合う
これだった 天職みつけ キックオフ
再就職 ハリキリタイアと 思う日々
課長職 辞せども続く 家長職
「老い課長」 今度は妻から 「おい家長」
肩書きが 消えてふす人 活きる人
定年は 未来に続く リスタート
課長補佐 再雇用では 部下の補佐
長者から 長寿に変える マニフェスト
四時起き 体内時計は 現役中
リタイアの 着地で金を 目指そうか

NPO法人確定拠出年金教育協会は、10月1日を「リタイアメントを考える日」と定め、「リタイアメント川柳」の募集を含むさまざまな活動を行っています。